

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

数学科A

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年			1 年	○基本の作図を行うことができる。例題を基に解答を導くことができる。▲既習事項の定着に差が見られる。	数学の系統性を踏まえて、授業内で単元間のつながりを説明し、繰り返し学習することで定着を図る。	一年間の振り返り学習を行い、知識の定着を図った。来年度は単元ごとの振り返りを行う。
	2 年			2 年	○既習事項の性質を用いて、図形の合同を証明することができる。▲図形の定義・性質が定着していない生徒がいる。		図形やデータなど、内容の異なる単元での習熟度の差が見られるので、振り返り学習を行う。
	3 年			3 年	○相似な三角形から比例式を導き、必要な辺を求めることができる。▲単元によつての習熟度が異なる。		受験対策や予習など、既習事項を活用する場面を多く設定することができた。
思考・判断・表現	1 年			1 年	○図形の面積に関する性質を、文字を用いて表現することができる。▲前単元の内容が加わると判断に時間がかかる。	個人学習の時間を設け、自身で判断させる機会を多く設ける。習熟度別問題を作成し、生徒一人一人に必要な手立てを把握する。	複数ある解法から適したものを判断させる機会を多く設定した。来年度も自身に判断させる機会を設ける。
	2 年			2 年	○平行四辺形になる条件を判断し、証明を組み立てることができる。▲証明の一部を省略することがある。		自分の考えを他者と協議させ、意見をまとめる作業を通して表現することができた。
	3 年			3 年	○図形の中から相似な三角形の組み合わせを判断することができる。▲複数の単元を組み合わせることに時間がかかる。		授業の中で復習の目標を設定して、習熟度別に授業を構成した。
主体的に学習に取り組む態度	1 年			1 年	○意欲的に学習に取り組み、まずは解いてみようという気持ちの生徒が多い。▲前時の内容を生かせない生徒がいる。	机間指導や、一人一人への丸つけをとおして個に応じた指導を行う。教えあい、グループ学習で多くの意見を交流させる機会を設ける。	算数分野の振り返りも含めて、つまづきを減らすことで数学の系統性を生かす授業を展開していく。
	2 年			2 年	○繰り返し証明をすることで、流れを定着させようとしている。▲5 0 分の授業で学習を完結させようとしている。		話し合いの場をとおして、自身の解答の整合性を取る機会が増えた。来年度も意見を交流させる機会を設ける。
	3 年			3 年	○誤答をしても、ミスの原因をすぐに理解し学習に臨んでいる。▲意欲的に学習する生徒としない生徒に分かれている。		次年度以降の内容にも触れて、現在習っている単元がどのように生かされるのかを理解させる。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）		研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業		グループ学習、教えあい学習をはじめとした意見を交流させる場の提供。なぜその解答になったのかを過程を重視し、全体に説明させる場の提供。				教えあいや発表など生徒の意見を活用する場面は多かったが、証明をはじめ記述問題が多く、ＩＣＴ機器を活用する場面が少なかった。	既習事項を確認する発問や、グループ協議や教え合い活動は今後も継続していく。単元ごとの振り返りを設けることで更に知識の定着を図っていく。